

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	平成30年7月5日	評価結果市町村受理日	平成30年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2017_022_kami-trus&amp;livvosvoCd=2192800064-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2017_022_kami-trus&amp;livvosvoCd=2192800064-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年7月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の生活、一般の生活常識をベースとして一人ひとりの生活習慣を大事にしている。個々の思いをゆっくり話を聴くことでここでの生活にとりいれるべきヒントを見つけ出し、出来る事はなるべく自身の力で生活し、それを尊重しながら支援している。様々な疾患、認知機能低下に合わせ全員でも行える事と個人で行える事を考えながらゲスト様に納得した暮らしを送って頂き幸せに繋げ対人援助に力を入れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには馬瀬川あり、自然豊かな環境である。敷地内にはグループホームのほかに特別養護老人ホーム、歯科診療所があり、粋いき・馬瀬の元気館として運営されている。歯科診療所は地域住民の受診も可能で、利用者と地域住民との交流の場にもなっている。歯科衛生士による口腔ケア、管理栄養士による栄養ケアにも力を入れ、その人らしい暮らしができるような支援を行っている。人口が多い地域ではないが、災害発生時には地元消防団の素早い対応も行われ、地域の傾聴ボランティアの訪問など、利用者と地域のつながりを大切にしながら支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各自が所持するPASSOを常に確認し実践出来る様に心がけている。	職員は、理念・方針などが書かれた「PASSO」を、常に携帯し、基本姿勢や使命を確認しながら、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動への参加や地域住民のボランティアの受け入れなど交流している。又、歯科受診時は地域の方との交流の場となり世間話の場ともなっている。	2階の歯科を受診する住民と利用者が、自由に交流できるように配慮している。敷地内で行う夏祭りには、地域住民にも声をかけ、ボランティアにも協力してもらい開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講演会に参加し、他事業所、医療関係者からも支援の方法を取り入れここでの支援に加えケアの幅を広げご家族様やボランティアの方等に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設全体で開催される運営推進会議では行政、民生委員、家族代表、知人を有する方に出席頂き、要望や相談を聞き入れ事業運営に生かしている。	2ヶ月に1度開催する運営推進会議では、事業報告、地域の状況、家族の意見や要望等を話し合い、サービス向上に活かしている。出席者の発言も多く、有意義な会議が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、認定調査時、施設の実情を伝え他地域の現状を把握しながら協力関係を築き日頃から連絡を取り合いながら途切れない関係である。	市の担当者には事業所の現状を報告し、情報を交換している。地域ケア会議などでは、地域の福祉課題について話し合い、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け日頃からの確認を行うために改の研修を行っている。日頃の当たり前が一番恐ろしいことに繋がらないために。	法人全体で身体拘束に関する共通マニュアルを作成し、職員の意思統一を図っている。同一の見解により身体拘束をしない取り組みを行うことで、個々の解釈の違いによる身体拘束が起きないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身近な虐待、言葉に注意し職員同士が注意しあえる関係である。慣れ言葉が思わぬ虐待となっている事が多い為職員は管理者に話しやすい関係である。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々独居生活の方や家族が遠方に住んでいる、高齢者だけの生活者が増えている。必要のある方には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者が自宅や希望時に合わせて納得のいく丁寧な説明に努め、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常生活の様子を毎月のお手紙に写真を加えより一層理解しやすい工夫をしている。また、面会時は職員と家族が意見を聞ける関係を作り時間をとっている。意見を聞いた職員は全職員へ周知、相談をしている。	毎月、担当職員が、利用者の様子を手紙を書いて家族に報告している。また、面会時とは違う一面を伝えることで、家族からの要望などを引き出しやすいよう工夫している。意見箱も設置し、家族や訪問者に書いてもらえるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月本部での管理者会議に出席し、運営状況の確認を行っている。職員からの意見を提案し反映までに辿り着く事は難しい。	会議では様々な意見が出され、事業所内で解決できることは、話し合いながら改善策を見出している。管理者は、職員同士が日常の気づきなどを話しやすいよう、雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な必要とされる研修の参加、資格取得に業務内で参加することができ費用面の全額負担で参加できる。時間内労働できるよう勤務配置時間に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握する為、時には問いただして確認したり勉強会の開催を設けている。頭脳労働の重要性を一人一人確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、相互の活動報告や困難事例等全体で考え広い意見を吸収しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを正確に行い、要望や意見を明確に取り入れ統一したケアが行えるようケアプランに取り入れ全職員が把握し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話が出来る時間を可能な限り多く取り入れ情報を見落とすことなく不安なこと、要望をまとめできることからひとつずつ支援しました報告する事で関係作りを深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ゲストの状態を常に観察し、家族と相談し医療面や歯科の受診等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゲストとの些細な会話、寄り添う時間を増やしお互いが心配しあえる仲、人生の大先輩でありながらお互いが頼りであるどこか温かみのあるそして全職員が把握し、お互いが当たり前毎日がが幸せである関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入所してしまえば一安心かもしれないがどこに行っても家族は一つ、ゲストには二つの家がある。そんなフレーズを話、理解して頂いた上で入所頂いている。毎日の様子ではできる限り正直に伝えるように記録は明確に残している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の面会が多く大切にしている。また馴染みの美容院や洋菓子店、温泉施設へも出掛け家族にも協力をお願いしている。	家族の協力を得て、外出や外泊を楽しんだり、面会に来た訪問者と、部屋でのんびりと過ごす利用者もある。また、併設の特別養護老人ホームの入所者と、自由に行き来しながら交流し、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここに入所し知り合えたのも何かの縁とし、気の合うもの同士また孤立のないよう仲間作りに食席の配置も考え暮らしやすい生活に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話で近状相談に乗ったりご家族のフォローにあたっている。又お手紙等頂いた時は確実に返信したり関係を切らさないそんな努力も欠かさない。財産だと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゲストが困らない何でも話ができるよう職員は忙しさは出さず聞きやすい雰囲気を出している。希望や意向が話せないそんなゲストには○×で答えられる質問や仕草をみて判断し確実に思いに沿ったケアに努めている。	利用者との会話の中から、個々の思いを読み取り、それぞれの個性を受け入れながら、寄り添ったケアを行っている。また、利用者同士がお互いの存在を認め合い、共同生活をする場と思えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを元にセンター方式等も加え一人ひとりを深く知り共有し統一したケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式A-2、A-3、A-4、B-2、D-4等取り入れできる事を増やし無理のない安楽な生活普通の生活を長く過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議までに担当職員は一つでも多い情報収集に努め会議時に話し合える時間の工夫を作り意見やアイデアを多く取り入れ介護計画に取り入れている。	家族の意向は訪問時や電話で確認している。職員の日ごろの気づきについても話し合い、サービス担当者会議でニーズを検討しながら介護計画を作成し、個別支援にも取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録はゲストの第二の声とし、事実をありのまま記入しゲストの本当の声を広い介護計画に取り入れ全職員が把握し新たなサービスの向上に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟な対応に最大限利用できることは利用している。併設型施設の為、機械浴や栄養補助食品の提供、緊急時の医療面の設備全般が利用できる。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア(野球チーム、傾聴、ご近所)の力を借りて毎日の生活の変化に充実した暮らしを送っている。温泉の湯からのサービス、足湯もとても楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が在宅診療所からの往診体制をとっている。24時間安心して往診を受けられご家族からも安心した医療体制に納得頂いている。	かかりつけ医は利用者の希望医としているが、現在、全利用者が協力医をかかりつけ医としている。往診の際には、医師がゆっくりと時間をかけて利用者向き合い、体調の確認をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同、施設内の看護師が必要に応じて関わり、職員の相談に乗れる体制をとっている。又必要なゲストの処置も対応できる体制をとり常に情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報の提供を行い、退院時は必要に応じて再アセスメントに尋ね、病院からも情報の提供を頂ける関係を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初めは入所時、本人も交え家族、主治医、施設と意思を確認し、話し合う、重度化になりつつあるときは再度、主治医と説明を家族、施設と面談の機会を設けている。	重度化については、状態の変化に応じ、改めて指針を説明し、文書で家族の同意を得ている。看取りの時には、医師・看護師・管理栄養士など、関係者が連携して対応の共有化を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に一度は救命訓練を全体で行っている。確認の為、又手順書は周知してあり各自でも自学している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害時の避難訓練は夜間訓練も含めて消防署の応援を借りて三ヶ月に一度利用者も交えておこなっている。地域の消防とも一番近隣で早く応援が頂けるツールが整っている。	避難訓練は併設する特別養護老人ホームと合同で行っている。事業所のすぐ近くには地元の消防団の詰め所があり、万が一の災害時には、いち早く消防団の応援を得られる体制となっている。	災害時支援カード・移送計画書を定期的に更新し、全職員が情報を共有しながら、災害への備えを意識しておくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人生史を理解しまた尊重し、利用者に共有できる言葉かけや対応を行う事で大切にされている、と言う思いが現れるよう心がけている。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、寄り添いながら対応している。職員からの声かけも安心してもらえるように、声のトーンやボリュームにも配慮している。また、言葉遣いに注意し、馴れ合いにならないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気の合う少人数での時間を設け気楽に話ができたり何事も最後まで助けるのではなく利用者本位を大切に自己決定ができる配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりのない起床時間、就寝時間があり多少のズレがあつて当然の声掛けを行っている。又夜間入浴もあり入浴直後に就寝したい利用者には時間の許す範囲で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の準備でも自己選択ができるようまた迷う事で決めれないときは、二者択一にする等あくまでも本人の思いを大切にまた、おしゃれの相談や、談笑できる時間を設けるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを朝一番に書いて頂き、立ち仕事のできる方にはキッチンに入って頂き一緒にいる、食事の会話を行う事で好みの把握もでき楽しみに繋げている。	食事中は会話を楽しむことを大切にし、味付けの感想を言い合いながら、好みの把握もしている。利用者は、準備や片づけなど、できる範囲で担当し、一緒に作る楽しみも味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態の把握(BMI、アルブミン値)毎月把握し栄養状態を支援している。また管理栄養士による栄養ケアを行い半年に一度見直しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からの口腔内指示書のもと個人に合せた毎食後の口腔ケアを行い残存物の確認や口腔内のチェックも行っている、又、月に二回の歯科衛生士口腔機能管理も行っている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を確認、予測し、早めの対応により失敗を減らすことで気持ちの良い安楽な生活維持を送れる支援を行っている。	自立度の高い利用者が多く、自立の妨げになるような無理な声かけは行っていない。利用者が自分のペースでトイレへ行く際に、転倒しないよう職員が見守りながら、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの野菜摂取に合わせ毎朝のヨーグルトの提供を行い、個々の身体状況に合せた毎日の運動を欠かさず行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみされているゲストが大半で湯加減や羞恥心に注意し個々に合わせて同性介護も行い希望者には夜間入浴も行っている。	入浴の順番や時間帯など、希望を聞きながら、入浴時間を楽しめるよう工夫している。外には足湯の設備があり、近くの温泉から湯を運んできて、温泉気分を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に合わせて就寝時間の声かけを行ったり、夜間眠れない時は個々に添う時間を作り安心してつなげ眠れるよう支援し、日中でも多少の昼寝は体に良いと休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況が一目でわかるよう毎日の介護記録に添付し全職員が理解し、特に服薬が変わったときは確認印をし漏れのない工夫を行い、行動、身体の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事、もっと出来る事を見逃さずアセスメントし全員の生活に必要な存在であると言う意識を高められるよう支援し、嗜好品はおやつに取り入れ、いつもとは違う場所で食べたり気分転換に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れた日は一日に一度は戸外へ出て散歩や軽い運動を行い苗物の手入れ、草取り等日常生活に取り入れている。また家族の協力により、旅行や姉弟宅への長期外泊も一年の計画にいれ楽しみされているゲストもみえる。	近くのグラウンドでの野球を観戦したり、庭のプランターに植えた植物の世話をしたり、外に出て楽しめるよう工夫している。桜や紅葉の季節には、四季を感じるができるよう、年に2、3回ドライブを兼ねた外出を計画し、支援している。	



岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少の金銭を所持していることで人は安心して生活できる事を心理上から考え、家族了承の元使用する事がほとんどのなくても安心材料の一つとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいゲストは常に書いて出せる様に支援し、家族や知人等へ電話をかけたときは、思いを尊重し職員付き添いの元電話をかけてみえる又個々に携帯電話を所持してみえるゲストも数人みえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰もが住みよい環境、ここにいていいんだ、当然なんだと言う思いが生まれるよう写真、作品を飾り職員も一緒に生活しているけして一人ではないんだと言う温かい空間作りに工夫している。	中庭があり、心地よい日差しが入る造りになっている。手作りの作品や、イベントの時に撮った写真などを飾り、みんなで一緒に見ながら会話を楽しんでいる。廊下の角にも、静かに座って過ごすことができるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設全体を利用しマッサージスペースや休憩所の利用、気の合ったゲスト同士で施設内反日過ごし夕方ホーム内へ帰ってみえたり思い思いの時間で過ごせる工夫があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談の上暮らしやすく慣れている家具や好みのものを取り入れゲスト同士がお互い理解の上、居室で世間話や雑談を楽しめる様に支援している。	居心地良く生活が送れるように、使い慣れた家具などを持ち込んでいる。また、家族と相談しながら、それぞれの好みにレイアウトし、安心して落ち着けるよう部屋作りをしている。どの部屋も日差しが入る造りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立を目指し、ゲストが書かれた表札、案内版などがある、自由に散歩出来る開放された施設である。		